

< 農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例 >

自分たちで守る集落の環境

1．集落協定の概要

市町村・協定名	山口県 ^{さんようおのだし} 山陽小野田市・ ^{まつだけばた} 松岳畑				
協定面積 1.3ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地	
	水稻				
交付金額 27.7万円	個人配分			29%	
	共同取組活動 （71%）	役員報酬			20%
		農地維持管理費			8%
		水路・農道維持管理費			6%
共同利用機械等整備経費			30%		
	事務費等			7%	
協定参加者	農業者 4人			開始：平成12年度	

2．取組に至る経緯

松岳畑集落は山陽小野田市の北央部にある松岳山のふもとに位置している。集落の全農家は7戸と少なく、また高齢化等により担い手が不足し、耕作放棄地が増加している。この現状に歯止めをかけるため、集落内での合意形成を図り、平成12年度の制度開始時から協定を締結し、自分たちの農地は自分たちで守るという意思のもと、取り組みを続けている。

3．取組の内容

深刻化している鳥獣被害を防止するため、集落にイノシシ、タヌキを呼び込まないよう防護柵の点検、遊休農地・農道・水路の草刈りを共同で行い、休耕田については全て耕起するなど農地の維持管理に努めている。また、野生鳥獣による農作物への被害が、集落全体の耕作意欲を失わせる喫緊の課題となっているため、環境美化と併せて集落全体での取り組みを行っている。



【集落の風景】

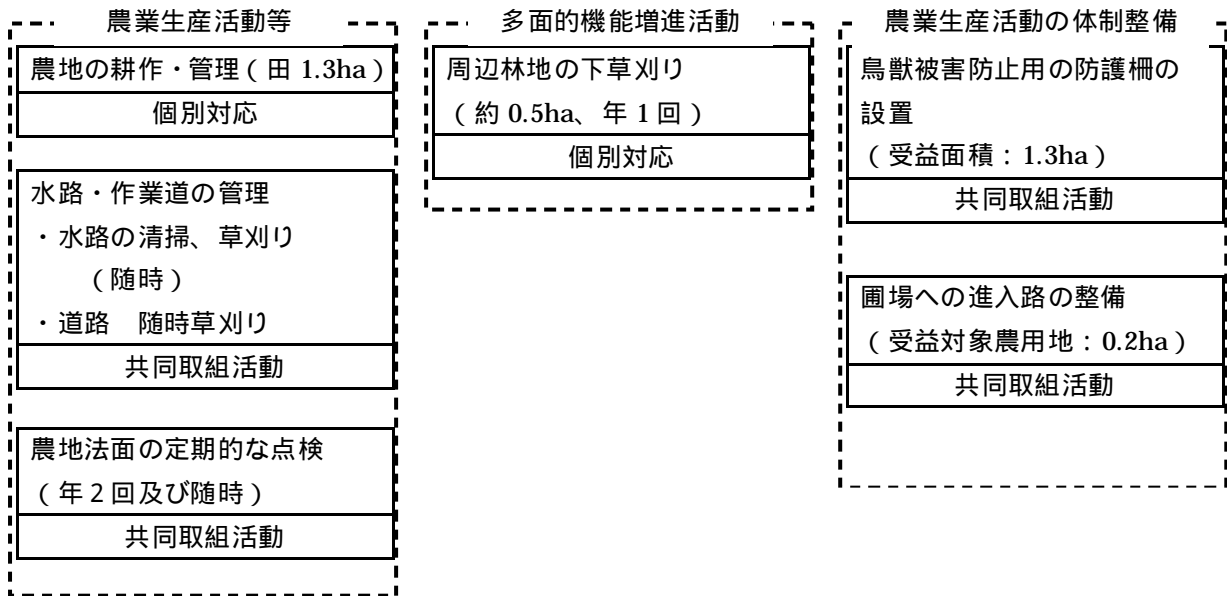


【作業風景】

[集落の将来像]
地域の实情に即した農業生産の体制整備



[将来像を実現するための活動目標]
個人配分を少なくし、大部分を共同活動に充てることで農地を守る



4 . 今後の課題等

新たにサルやシカによる鳥獣被害が懸念されており、効果的な侵入防護柵の設置を検討しているが、協定参加者の高齢化により困難な状況である。また、同様に作業全般についても高齢化の影響があるため、後継者の育成が急務である。

[第 2 期対策の主な成果]
防護柵の設置、耕作放棄地の草刈りにより鳥獣被害防止
集落の環境美化の向上